

平成30年度 第3回 学校運営協議会 【議事録】

平成31年1月30日 10:00~12:00

[場所] 茨木支援学校 校長室

[出席者] 協議会委員(6名) 校長 准校長 教頭(2名) 事務長 首席(3名) 指導教諭 部主事(2名) 首席兼部主事(1名) 計18名

1. 校長挨拶のあと、中学部の授業見学および作品展の見学をおこなう。

2. 50周年記念事業について (担当首席より)

補足(教頭より): 記念誌の医療的ケアについては、歴史についても座談会の様子を収録する予定

3. 授業アンケートについて(教頭より)

- ・2回目は声かけを増やすことで回収数が増加。生徒用アンケートは中学部と高等部生活課程の生徒が回答。
- ・小学部のクラスの母体数が少ないため枚数は少ない。本校へのメッセージに関しては肯定的な意見が多かった。

【ご意見など】

○高等部の授業内容について保護者が思われることに関して、教員は説明をしていかなければならない。子どもたちが何を学ぶのか、どんな力をつけるのかということが保護者に伝わっていない現状を受け止め、学習のねらいをはっきりさせる必要がある。

○授業力向上については、先生方がクリアしていかなければならない。厳しい意見は多くはないが、その内容が先生方にきちんと伝わっているか。自分のこととしてとらえ問題意識をどこまでもてるか。折に触れて管理職から注意喚起が必要。学部や学年など小さい単位で意志を持って話し合っていないと、いつまでも同じ指摘が起きる。先生方の日々の頑張りは多くのメッセージから読み取れるが、一部で出た意見を大切にしてもらいたい。

4. 学校教育自己診断について(担当首席より) ⇒アンケートの報告及び分析(別紙プリント参照)

○今後も継続して回収率100%をめざしていただきたい。一般からすると支援学校の先生方は専門性が高いとみなされる。転勤されてきた先生方や保護者にその辺りをどう伝えるか。保護者アンケートの否定率は「0」にはできない。先生たちが主体的に考えることを忘れず、保護者に伝えていかないといけない。担任が誠意を尽くして、考えを伝えて風通しを良くし対話していく。ただ、保護者のニーズを尊重するあまり学校の方針を見失ってはいけない。

○ Q: 支援計画はどの程度の頻度で保護者に説明をしているのか?

A: 年度の初めに、教員と保護者で確認。来年度は変更時期も加えて計画している。

Q: ヒヤリハットについてはどのようにして共有化しているのか?

A: 医療的ケアについてのヒヤリハットや、全体にかかわることについてはできる限り早く、次の日の朝礼で健康安全部から報告される。大きな事故などにつながるような内容は部主事から報告される。

5. 平成30年度学校経営計画評価及び平成31年度学校経営計画について

(校長より) ○平成30年度自己評価の説明: 自己評価それぞれの項目を ◎○△で評価。

○平成31年度学校経営計画の説明: 文化・アートを取り入れた活動やキャリア教育に関するワークショップを新規に取り入れる。

(准校長より) ○平成30年度自己評価説明・・・自己評価それぞれの項目を ◎○△で評価。

○平成31年の学校経営計画の説明: キャリア教育と自立活動の役割の明確化 ・子どもにつけたい力の明確化

・就労生徒の定着率5年間100パーセント・センター的機能の充実 ・卒業後の居場所の情報提供、余暇活動の充実

【ご意見など】

○Q: 新学習指導要領に関する先生方の意識が高くなっているという報告があるが、新学習指導要領で具体的に変わるところはどこか。

A: 解説本をみんなで読み解いているが、前回との違いについては比較していなかった。

前回と具体的な違いを理解するという視点に重点を置いていなかった。今の授業をどのような観点で見直していけば新学習指導要領に沿うことになるのかということを各先生方にお知らせしている。

○「新」と付くと、どこが違うのか、今までやってきたことはやめるのかなどが気になる。プログラミングを取り入れるということもあるので、小学部でもその学習を受ける生徒も出てくる。先生方の研鑽も必要。「新」に変わるタイミングで改めて教員が研鑽をつむ必要がある。親のほうが詳しいこともあるので、先生方もよく知っておいたほうがいい。そのほうが保護者も安心する。

⇒「平成30年度学校経営計画の評価」および「平成31年度学校経営計画」が承認される。

6. 学校運営協議会 意見箱より・・・意見なし。

7. その他 次年度の就任のお願い

准校長挨拶・・・50周年の取組みと、承認いただいた経営計画に沿って運営していく。

以上